

グレタ・トゥーンベリさんについて

I. 略歴

2003年 スウェーデンで誕生。父親スヴァンテは俳優。母親マレーナはオペラ歌手
ちなみに、1903年温室効果の発見によりノーベル化学賞を受賞したスヴァンテ・
アレニウスはトゥーンベリ家の親戚で、父親の名はアレニウスに由来する。

2014年 11歳。授業で世界中の海に浮遊する大量のごみに関する映画で、南太平洋の浮
遊プラスチックごみが集まり巨大な島を作っているという映像を見て衝撃を受け、食事
が喉を通らなくなる。9月最初の発作が起きる。その後様々な症状に苦しむ。アスペル
ガー症候群との診断を受ける。摂食障害が続く。学校でいじめに遭う。

* アスペルガー症候群は以下の傾向が診られる。

高機能自閉症。語彙が豊富。文法にも強い。コミュニケーションが不得手。

特定の事柄に強い関心を持つ。高度な知的能力を持つが、体系化は苦手。

知覚情報の統合が不得手。不安感や気分のコントロールが困難。

2015年 グレタは平穏な生活に戻り、新しい学校に通う。秋にインガレー島の別荘をシ
リア難民に提供し、そこに彼等は難民認定終了まで暮らす。

2016年 妹ベアタが、ADHD（注意力欠損運動過剰障害）、自閉症他の診断を受ける。
3月以降 母親は航空機による移動をやめる。

2017年 家族で地球環境問題に関心を持ち続ける。

最適な二酸化炭素濃度は350ppm以下。1987年に350ppmを超えた。す
でに現在410ppmを超え、今後10年少しで440ppmに達する。ストックホ
ルムと東京を飛行機で往復すると、5、14トンの二酸化炭素を排出。総フライト時
間（約25時間）に一人が200kgの牛肉を食べるに相当。

11月 父親と妹ベアタはロンドンでのコンサートへ行くため、電気自動車で往復。
5日間の旅となる。

2018年4月 国連事務総長アントニオ・グテーレス、「気候変動は、人類最大の脅威」。

7月 スウェーデンの議員選挙運動が始まり、どの政党も突然気候危機を話題にし
始めた。スウェーデン各地で火災が発生した。乾燥や高温が数か月続いた。気候変
動の影響を最も受けやすい北極圏に国土の6分の1がある。

春以降グレタの体力は次第に回復。新聞の作文コンテストに応募したり、学校スト
ライキの計画を立て始めた。

グレタと父親は、スウェーデン北部に旅をした。学校ストライキについて話し合っ
た。それにより、どんな質問をされるか等。両親は実は、グレタがストライキをす
ることを望まなかった。不愉快な結果になることは目に見えていたから。

8月20日。ストックホルム国会議事堂前で気候のためのストライキを決行。

ドキュメンタリーフィルムの撮影。ツイッターやインスタグラムの拡散。様々な

誹謗中傷・嘲笑も起こる。しかし終了近くには、デンマーク、ドイツ、イギリスのTV局も動向を撮影。スウェーデン国内で100ヶ所以上、ヨーロッパの他の国々、ノルウェーでも数千人がストライキ。グリーンピース、自然保護協会、etc.の団体が協力。ストライキ最終日9月7日には約1千人が一緒に座り込む。

9月8日 気候のための市民デモでスピーチ。その後各地でスピーチが続く。

10月6日 ブリュッセル 11月24日 スtockホルムの「TED」

12月4日 国連 COP24(パリ)

2019年1月22、23日「世界経済フォーラム」(ダボス)

2月21日「欧州社会評議会」3月30日「ゴールデンカメラ賞」(ベルリン)

2019年3月15日グretaさんの呼びかけに共感した若者たちが集会やデモ。

4月16日「欧州議会」(ストラスブルグ)4月23日ロンドン議会

5月28日「オーストリア世界会議」5月31日「未来のための金曜日」(ウィーン)

8月14日 国連総会出席のためヨットで英国からニューヨークに出発。

8月28日マンハッタンの埠頭に到着。9月18日米国議会で講演

9月23日 国連気候変動サミットで講演

11月13日 スペインのCOP25出席のため、ヨットで米国出発。大西洋横断。

12月4日 リスボン着 12月7日 COP25で世界中から集まった人々とデモ

COP = conference of the parties to the United Nations Framework Convention on climate change 国連気候変動枠組条約締約国会議

II. スウェーデンの教育

年齢	学校 課程	内容
1 (2) ~ 5	就学前学校	教育と保育の機能を持つ
6	就学前教室	
7 ~ 16	義務教育 初期教育	コア科目—英語、スウェーデン語、数学
16 ~ 19	後期中等教育 (高校教育)	高等教育進学準備と職業教育に分かれる
20 ~	大学	スウェーデン語と英語の運用能力が必要
	大学院	
	リカレント教育・生涯教育	

* 1歳児以降のエデュケア (EDUCARE) education+care

「子供たちの好奇心、企業家精神、そして興味を励まし意欲と意思を刺激すべきである。」

III. 気候関連事項

1. 京都議定書—1997年京都で開催され気候変動枠組条約第3回締約国会議COP3で採択。2005年発効。対象ガスは二酸化炭素等6種。削減目標は2008年から12年までに先進締約国で1990年比5%以上。アメリカ不支持。

パリ協定—2015年12月気候変動枠組条約第21回締約国会議 COP21.

京都議定書以来18年ぶりに採択。①産業革命前からの平均気温上昇を2度未満に抑える。出来れば1.5度未満を目指す。②今世紀後半に温室効果ガスの排出量を「実質ゼロ」にする。③すべての国が削減目標を提出し、5年ごとに強化する。
アメリカトランプ大統領パリ協定離脱を表明。来年11月離脱発効。

IV. グレタ・トゥンベリさん国連気候行動サミット演説文

This is all wrong. I shouldn't be up here. I should be back in school on the other side of the ocean. Yet you all come to us, young people, for hope? How dare you! You have stolen my dreams and my childhood with your empty words. And yet I'm one of the lucky ones. People are suffering. People are dying. Entire ecosystems are collapsing. We are in the beginning of a mass extinction. And all you can talk about is money and fairytales of eternal economic growth. How dare you!

これは全て間違いです。私はこんな所で立ってはいけません。海の向こう側の学校に戻っているはずなのです。しかしあなた達皆私達若者の所に来るのです、希望を求めて？よくもまあそんなことが！あなた方は私の夢や子供時代を空しい言葉で盗んだのです。しかし私は幸運な人間の一人です。人々は苦み、亡くなってもいる。全ての生態系が崩壊しかけている。私達は絶滅しかかっている。しかし話すことといえばお金と永久に続く経済成長のおとぎ話だけだ。よくもそんなことが！

For more than thirty years the science has been crystal clear. How dare you continue to look away, and come here saying that you are doing enough, when the politics and solutions needed are still nowhere in sight.

30年以上の間科学は明確だった。よくもまあ目をそらし続け、ここに来て私達は十分なことをしていると見えるものだ、必要な政策も解決方法もまだ見えていないのに。

You say you "hear" us and that you understand the urgency. But no matter how sad and angry I am, I don't want to believe that. Because if you fully understood the solution and still kept on failing to act, then you would be evil. And I refuse to believe that.

皆さんは私達の言うことを聞いている、そしてその緊急性も分かっていると言う。しかしいかに私が悲しみ怒っていても私はそんなことは信じたくない。なぜなら十分その解決法が分っているのに行動しないで居続けるなら、邪悪なのです。私はそんなことは信じません。

The popular idea of cutting our emissions in half in ten years only gives us a 50% chance of staying below 1.5C degrees, and the risk of setting off irreversible chain reactions beyond human control.

今後10年以内に排出量を半減するという一般的な考え方では気温が1.5℃以下に留まる可能性は50%にすぎず、人間の制御しきれない不可逆的な連鎖反応を引き起こす危険性がある。

Maybe 50% is acceptable to you. But those numbers don't include tipping points, most feedback loops, additional warming hidden by toxic and pollution or the aspects of justice and

equity. They also rely on my and my children's generation sucking hundreds of billions of tons of your CO2 out of the air with technologies that barely exist. So a 50% risk is simply not acceptable to us – we who have to live with the consequences.

50%というのは皆さんにとっては許容範囲なのでしょう。しかしそれには、深刻な状況への転換点、帰還ループ有毒な大気汚染に隠された更なる温暖化、あるいは正義や公平性の側面は含まれていません。またその数字は私や私の子供たちの世代がまだ存在しない技術によって排出される何億トンものCO2を空中から吸い込んでいる事によるものなのです。ですから50%は私達一その結果と共に生きなければならない私達には受け入れ難いのです。

To have a 67% chance of staying below a 1,5 °C global temperature rise – the best odds given the Intergovernmental Panel on Climate Change - the world had 420 Gigatonnes of carbon dioxide left to emit back on 1 January 2018. Today that figure is already down to less than 350 Gigatonnes. How dare you pretend that this can be solved with business-as-usual and some technical solutions! With today's emissions levels, that remaining CO2 budget will be entirely gone in less than eight and a half years. (gigaton = 10億トン)

地球の気温上昇を1,5°Cに留める確率を67%にするには、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)が出した最善の見込みで、2018年1月1日で世界に残されたCO2許容量は4200億トンだった。現在ではその数は3500億トン以下になっている。よくもまああなた方はこれを従来通りのやり方や何か技術的な解決策で何とかなるといふ振りが出来るものだ。現在の排出レベルでは、残りの排出許容量に8年半も経たずに達してしまう。

There will not be any solutions or plans presented in line with these figures today. Because these numbers are too uncomfortable. And you are still not mature enough tell it like it is.

今日これらの数字に合うように作られた解決策や計画は全く出されていない。なぜならこれらの数字は都合が悪すぎるからだ。あなた達はそれをありのままに口に出来るほど成熟していない。

You are failing us. But the young people are starting to understand your betrayal. The eyes of all future generations are upon you. And if you choose to fail us I say we will never forgive you. We will not let you get away with this. Right here, right now is where we draw the line. The world is waking up. And change is coming, whether you like it or not.

あなた方には失望した。しかし若者たちはあなた達の裏切り行為に気づき始めている。全ての未来世代の目があなた方に注がれている。もしあなた方が私達を失望させる道を選べば私達は決して許しません。今丁度ここで、今すぐ私達は線を引きます。世界は目を覚ましつつある。そして変化が訪れようとしている、あなた達が好むと好まざるとにかかわらず。

参考文献

「グレタ たったひとりのストライキ」 マレーナ&ベアタ・エルンマン 海と月社
グレタ&スヴァンテ・トゥーンベリ

みんなの教育 スウェーデンの「人を育てる国家戦略」川崎一彦他4名 三井パブリッシング